

Oracle® Database

Client クイック・インストール・ガイド

10g リリース 1 (10.1) for HP Tru64 UNIX

2004 年 3 月

部品番号 B13710-01

このマニュアルでは、Tru64 UNIX システムに Oracle Client を容易にインストールする方法を説明します。次の内容について説明します。

1. このマニュアルの概要
2. root としてのシステムへのログイン
3. ハードウェア要件の確認
4. ソフトウェア要件の確認
5. 必須の UNIX グループおよびユーザーの作成
6. Oracle ベース・ディレクトリの作成
7. 製品ディスクのマウント
8. oracle ユーザーとしてのログインと oracle ユーザーの環境の構成
9. Oracle Client のインストール
10. インストール後の作業

ORACLE®

Copyright © 1996, 2004, Oracle.All rights reserved.

Oracle は、Oracle Corporation やその関連会社の登録商標です。その他、ソフトウェアもしくはドキュメントに表示されている商標および登録商標は、Oracle Corporation または各社が所有する商標または登録商標です。

1 このマニュアルの概要

注意： このマニュアルでは、Oracle ソフトウェアがインストールされていないシステムに Oracle Client をインストールする方法を説明します。ご使用のシステムに Oracle ソフトウェアがすでに存在している場合は、『Oracle Database Client インストール・ガイド for UNIX Systems』で、インストール手順の詳細を確認してください。

このマニュアルでは、新しい Oracle ホーム・ディレクトリに Oracle Client をデフォルトでインストールする方法を説明します。次のインストール・タイプの実行方法を説明します。

- **管理者：**アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle データベースに接続できます。また、Oracle データベースを管理するためのツールが提供されます。
- **ランタイム：**アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle データベースに接続できます。
- **Instant Client:** Instant Client 機能を使用する Oracle Call Interface アプリケーションに必要な共有ライブラリのみがインストールできます。このインストール・タイプは、他の Oracle Client のインストール・タイプに比べ、非常に少ないディスク領域で済みます。

関連項目： Instant Client 機能の詳細は、『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

追加インストール情報の入手先

Oracle Client のインストール方法の詳細は、『Oracle Database Client インストール・ガイド for UNIX Systems』を参照してください。

このマニュアルは、製品ディスクに含まれています。アクセスするには、Web ブラウザで、CD-ROM のトップレベル・ディレクトリの client ディレクトリ内にある welcome.htm ファイルを開き、次に「ドキュメント」タブを開きます。

2 root としてのシステムへのログイン

Oracle ソフトウェアをインストールする前に、root ユーザーとしていくつかのタスクを実行する必要があります。root ユーザーとしてログインするには、次の手順の 1 つを実行します。

注意： ソフトウェアは、X Window ワークステーション、X 端末または X サーバー・ソフトウェアがインストールされている PC または他のシステムからインストールする必要があります。

- ソフトウェアを X Window System ワークステーションまたは X 端末からインストールする場合、次の手順を実行します。

1. X 端末 (xterm) など、ローカル・ターミナル・セッションを開始します。
2. ソフトウェアをローカル・システム以外にインストールする場合、リモート・ホストが X アプリケーションをローカル X サーバーに表示できるように、次のコマンドを入力します。

```
$ xhost +
```

3. ソフトウェアをリモート・システムにインストールする場合は、次のようにコマンドを入力して、リモート・システムに接続します。

```
$ telnet remote_host
```

4. root ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力して、ユーザーを root に切り替えます。

```
$ su - root
password:
#
```

- X サーバー・ソフトウェアがインストールされた PC または他のシステムからソフトウェアをインストールする手順は、次のとおりです。

注意： このタスクの実行方法の詳細は、必要に応じてご使用の X サーバーのドキュメントを参照してください。使用している X サーバー・ソフトウェアによっては、タスクの実行順序が異なる場合があります。

1. X サーバー・ソフトウェアを起動します。
2. X サーバー・ソフトウェアのセキュリティ設定を構成して、ローカル・システム上の X アプリケーションをリモート・ホストで表示できるようにします。
3. ソフトウェアをインストールするリモート・システムに接続し、そのシステムで X 端末 (xterm) などのターミナル・セッションを開始します。
4. リモート・システムに root ユーザーとしてログインしていない場合は、次のコマンドを入力して、ユーザーを root に切り替えます。

```
$ su - root
password:
#
```

3 ハードウェア要件の確認

システムは、少なくとも次のハードウェア要件を満たしている必要があります。

要件	最小値
物理メモリー (RAM)	256MB (262144KB)
スワップ領域	512MB (524288KB) または RAM のサイズの 2 倍 RAM が 2GB 以上あるシステムでは、スワップ領域は RAM のサイズの 1 ~ 2 倍が必要です。
/tmp 内のディスク領域	400MB (409600KB)
ソフトウェア・ファイル用のディスク領域	インストール・タイプにより、150MB (153600KB) ~ 1.9GB (1992295KB) のディスク領域

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理的な RAM のサイズを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /bin/vmstat -P | grep "Total Physical Memory"
```

システムにインストールされている物理的な RAM のサイズが 256MB 未満の場合は、追加のメモリーをインストールしてから続行してください。

2. 構成されているスワップ領域のサイズを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /sbin/swapon -s
```

追加のスワップ領域の構成方法は、必要に応じてご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

3. /tmp ディレクトリ内の空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -k /tmp
```

/tmp ディレクトリで使用できるディスク領域が 400MB 未満の場合は、次の手順の 1 つを実行します。

- /tmp ディレクトリから不要なファイルを削除して、必要なディスク領域を確保します。
 - oracle ユーザーの環境を設定する場合（後述します）は、TEMP および TMPDIR 環境変数を設定します。
 - /tmp ディレクトリを含むファイル・システムを拡張します。ファイル・システムの拡張方法は、必要に応じてシステム管理者に確認してください。
4. システムで使用できる空きディスク領域の量を調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# df -k
```

このコマンドにより、マウントされている全ファイル・システムのディスク領域の使用量が表示されます。インストールを実行するには、空きディスク領域が十分にあるファイル・システムを特定します。

4 ソフトウェア要件の確認

システムは、少なくとも次のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

- オペレーティング・システムのバージョンが、HP Tru64 UNIX V5.1B であること。
- 次のオペレーティング・システムのサブセットがインストールされていること。

```
OSFCMPLRS  
OSFLIBA  
OSFPGMR  
OSFSER  
OSFX11
```

- Software Development Kit (SDK) バージョン 1.4.2.01 for the Tru64 UNIX Operating System for the Java Platform (JDK 1.4.2) がインストールされていること。
- 次のパッチ・キットがインストールされていること。
 - Tru64 UNIX V5.1B パッチ・キット 2 以上:
T64V51BB22AS0002-20030415
 - Tru64 UNIX 5.1B PK2 BL22 Fixes for AdvFS Panic in _OtsMove; and Possible Memory Corruption:
T64KIT0020879-V51BB22-E-20031125

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. インストールされている Tru64 UNIX のバージョンを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/sizer -v  
Compaq Tru64 UNIX V5.1B (Rev. 2650); Mon Nov 3  
10:13:28 PST 200
```

この例で表示されているバージョンは、V5.1B です。必要に応じてオペレーティング・システムのマニュアルを参照し、オペレーティング・システムのアップグレードの詳細を確認してください。

2. 必要なソフトウェアのサブセットがインストールされているかどうかを調べるには、次のコマンドのいずれかを入力します。

- システムにインストールされているすべてのソフトウェアのサブセットを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/setld -i | more
```

- 特定のソフトウェアのサブセットがインストールされているかどうかを調べるには、次のようなコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/setld -i | grep subsetname
```

3. Java SDK 1.4.2 がインストールされているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/setld -i JAVA142 | more
```

Java SDK 1.4.2 がインストールされている場合、このコマンドにより、インストール済ファイルのパスがすべて表示されます。Java ホーム・ディレクトリのパスを記録しておきます。インストール時に、この値を指定する必要があります。デフォルトのパスは次のとおりです。

```
/usr/opt/java142
```

このコマンドにより、メッセージ **Unknown** サブセットが戻された場合、Java SDK 1.4.2 はインストールされていません。Java SDK 1.4.2.01 以上を次の Web サイトからダウンロードしてインストールします。

```
http://www.compaq.com/java/download/index.html
```

4. 必要なパッチ・キットがインストールされているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/dupatch -track -type kit
```

このコマンドによって必要なパッチ・キットの識別子（またはより新しいパッチ・キット・レベルの識別子）が表示されない場合、次の Web サイトから最新のパッチ・キットをダウンロードし、インストールしてください（Web サイトへのアクセスには、登録が必要です）。

```
http://itrc.hp.com/service/patch/mainPage.do
```

5 必須の UNIX グループおよびユーザーの作成

システムに次のローカル UNIX グループおよびユーザーが存在している必要があります。

- oinstall グループ (Oracle Inventory グループ)
- oracle ユーザー (Oracle ソフトウェアの所有者)

oinstall グループおよび oracle ユーザーは、システムにすでに存在している場合があります。これらのグループおよびユーザーがすでに存在しているかどうかを調べる場合、または必要に応じて作成する場合は、次の手順に従います。

1. oinstall グループが存在しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# grep oinstall /etc/group
```

このコマンドの出力結果が指定したグループ名を示している場合、そのグループはすでに存在しています。

2. 必要に応じて次のコマンドを入力し、oinstall グループを作成します。

```
# /usr/sbin/groupadd oinstall
```

3. oracle ユーザーが存在し、正しいグループに属しているかどうかを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
# id oracle
```

oracle ユーザーが存在する場合は、このコマンドにより、ユーザーが属しているグループに関する情報が表示されません。出力結果は次のようになります。oinstall がプライマリ・グループであることが示されています。

```
uid=502(oracle) gid=502(oinstall)  
groups=502(oinstall),503(dba)
```

4. 必要に応じて、次の処理の1つを実行します。

- oracle ユーザーが存在していてもプライマリ・グループが oinstall ではない場合、次のようなコマンドを入力します。-g オプションは oinstall をプライマリ・グループに指定し、-G オプションは oracle ユーザーが所属している既存のグループを指定します。

```
# /usr/sbin/usermod -g oinstall -G dba oracle
```

- oracle ユーザーが存在しない場合は、次のコマンドを入力して作成します。

```
# /usr/sbin/useradd -g oinstall -G dba oracle
```

このコマンドにより oracle ユーザーが作成され、次が指定されます。

- プライマリ・グループとして oinstall
- オプションのセカンダリ・グループとして dba

5. 次のコマンドを入力して、oracle ユーザーのパスワードを設定します。

```
# passwd oracle
```

6 Oracle ベース・ディレクトリの作成

次のような名前の Oracle ベース・ディレクトリを作成し、そのディレクトリに、適切な所有者、グループおよびアクセス権を指定します。

```
/u01/app/oracle
```

Oracle ベース・ディレクトリには、インストール・タイプにより、150MB (153600KB) ~ 1.9GB (1992295KB) の空きディスク領域が必要です。

インストール・タイプ	ソフトウェア・ファイルの要件 (MB)
Instant Client	150
管理者	1900
ランタイム	1000

これらのディレクトリを作成する位置を決定するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを入力して、マウントされているすべてのファイル・システムに関する情報を表示します。

```
# df -k
```

このコマンドにより、システムにマウントされているすべてのファイル・システムに関する情報が表示されます。次のような情報があります。

- 物理デバイス名
 - ディスク領域の合計量、使用量、および使用可能な量 (KB 単位)
 - そのファイル・システムのマウント・ポイント
2. 表示されている中から、空きディスク領域が十分にあるファイル・システムを特定します。
 3. 特定したファイル・システムのマウント・ポイント・ディレクトリ名を書き留めます。

次の例では、/u01 がソフトウェアに使用されるマウント・ポイント・ディレクトリです。ご使用のシステム上のファイル・システムへの適切なマウント・ポイント・ディレクトリを指定する必要があります。

必要なディレクトリを作成し、そのディレクトリに適切な所有者、グループおよびアクセス権を指定するには、次の手順を実行します。

注意： 次の手順では、/u01 を、前述の手順 3 で特定した適切なマウント・ポイント・ディレクトリに置換してください。

1. 次のコマンドを入力して、Oracle ベース・ディレクトリ用に特定したマウント・ポイント・ディレクトリにサブディレクトリを作成します。

```
# mkdir -p /u01/app/oracle
```

2. 作成したディレクトリの所有者およびグループを、oracle ユーザーおよび oinstall グループに変更します。

```
# chown -R oracle:oinstall /u01/app/oracle
```

3. 作成したディレクトリのアクセス権を 775 に変更します。

```
# chmod -R 775 /u01/app/oracle
```

7 製品ディスクのマウント

Oracle Client ソフトウェアは、CD-ROM および DVD-ROM の両方の形式で提供されています。これらのディスクは、Rockridge 拡張形式に対応した ISO 9660 形式です。

製品ディスクをマウントするには、次の手順を実行します。

1. 必要に応じて、次のようなコマンドを入力して現在マウントされているディスクをアンマウントし、ドライブから取り除きます。

```
# /usr/sbin/umount /cdrom
```

この例で /cdrom は、CD-ROM ドライブのマウント・ポイント・ディレクトリです。

2. ディスクを CD-ROM または DVD-ROM ドライブに挿入します。
3. ディスクをマウントするには、次のようなコマンドを入力します。

```
# /usr/sbin/mount -t cdfs -o nodefperm,noversion \  
/dev/disk/cdrom0c /cdrom
```

この例で、/cdrom は CD-ROM のマウント・ポイント・ディレクトリ（必ず存在している必要があります）、/dev/disk/cdrom0c は CD-ROM のデバイス名です。

8 oracle ユーザーとしてのログインと oracle ユーザーの環境の構成

インストーラは、oracle アカウントから実行します。ただし、インストーラを起動する前に、oracle ユーザーの環境を構成する必要があります。環境を構成するには、次の設定が必要です。

- シェル起動ファイルで、デフォルトのファイル・モード作成マスク (umask) を 022 に設定します。
- DISPLAY および ORACLE_BASE 環境変数を設定します。

oracle ユーザーの環境を設定するには、次の手順を実行します。

1. 別のターミナル・セッションを開始します。
2. X Window アプリケーションがこのシステムで表示できることを確認するために、次のコマンドを入力します。

```
$ xhost +
```

3. 次の手順の 1 つを実行します。

- ターミナル・セッションがソフトウェアのインストール先のシステムに接続されていない場合は、そのシステムに oracle ユーザーとしてログインします。
- ターミナル・セッションがソフトウェアのインストール先のシステムに接続されている場合は、ユーザーを oracle に切り替えます。

```
$ su - oracle
```

4. oracle ユーザーのデフォルトのシェルを調べるには、次のコマンドを入力します。

```
$ echo $SHELL
```

5. oracle ユーザーのシェル起動ファイルをテキスト・エディタで開きます。

- Bourne シェル (sh)、Bash シェル (bash) または Korn シェル (ksh) :

```
$ vi .profile
```

- C シェル (csh または tcsh) :

```
% vi .login
```

6. シェル起動ファイルで次の行を入力または編集して、デフォルトのファイル作成マスクに値 022 を指定します。

```
umask 022
```

7. ファイルを保存して、エディタを終了します。
8. シェルの起動スクリプトを実行するには、次のコマンドを入力します。

- Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ . ~/.profile
```

- C シェル:

```
% source ~/.login
```

9. ハードウェア要件を確認したときに、/tmp ディレクトリの空きディスク領域が不十分と判断した場合は、次のコマンドを入力して、TEMP および TMPDIR 環境変数を設定します。空きディスク領域が十分にあるファイル・システムのディレクトリを指定します。

- Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ TEMP=/directory  
$ TMPDIR=/directory  
$ export TEMP TMPDIR
```

- C シェル:

```
% setenv TEMP /directory  
% setenv TMPDIR /directory
```

10. ソフトウェアのインストール先がローカル・システムではない場合は、ローカル・システムに表示するために、次のコマンドを入力して、X アプリケーションに指示します。

- Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ DISPLAY=local_host:0.0 ; export DISPLAY
```

- C シェル:

```
% setenv DISPLAY local_host:0.0
```

この例で `local_host` は、インストーラの表示に使用するシステム（ワークステーションまたは PC）のホスト名または IP アドレスです。

11. 次のようなコマンドを入力して、ORACLE_BASE 環境変数を設定します。

- Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ ORACLE_BASE=/u01/app/oracle
$ export ORACLE_BASE
```

- C シェル:

```
% setenv ORACLE_BASE /u01/app/oracle
```

これらの例で /u01/app/oracle は、事前に作成した Oracle ベース・ディレクトリです。

12. ORACLE_HOME および TNS_ADMIN 環境変数が設定されていないことを確認するために、次のコマンドを入力します。

- Bourne、Bash または Korn シェル:

```
$ unset ORACLE_HOME
$ unset TNS_ADMIN
```

- C シェル:

```
% unsetenv ORACLE_HOME
% unsetenv TNS_ADMIN
```

13. 環境が正しく設定されたことを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
$ umask
$ env | more
```

umask コマンドにより値 022 が表示されていること、およびこの項で設定した環境変数に適切な値が設定されていることを確認します。

9 Oracle Client のインストール

oracle ユーザーの環境を構成した後、次のようにしてインストーラを起動し、Oracle ソフトウェアをインストールします。

注意： 次の例では、CD-ROM での runInstaller スクリプトへのパスを示しています。ソフトウェアを DVD-ROM からインストールする場合、次のようなコマンドを使用します。

```
$ /mount_point/client/runInstaller
```

1. インストーラを起動するには、次のコマンドを入力します。

```
$ cd /tmp  
$ /cdrom/runInstaller
```

インストーラが表示されない場合、『Oracle Database Client インストール・ガイド for UNIX Systems』で、X の表示のトラブルシューティングに関する情報を参照してください。

2. 次のガイドラインを使用して、インストールを完了します。
 - 次の表に、インストーラの各画面での推奨するアクションを説明します。

注意： 前述のタスクを完了している場合、ほとんどの画面でデフォルトを選択してインストールを完了できます。

- より詳細な情報が必要な場合、またはデフォルト以外のオプションを選択する場合、「ヘルプ」をクリックすると追加情報が表示されます。
- ソフトウェアのインストール時またはリンク時にエラーが発生した場合、『Oracle Database Client インストール・ガイド for UNIX Systems』のトラブルシューティングの説明を参照してください。

画面	推奨するアクション
ようこそ	「次へ」をクリックします。
インベントリ・ディレクトリおよび接続情報の指定	<p>注意: この画面は、システム上に初めて Oracle 製品をインストールする場合にのみ表示されます。</p> <p>次の情報を指定して、「次へ」をクリックします。</p> <p>インベントリおよびディレクトリのフルパスを入力してください</p> <p>パスが次のようになっていることを確認します。 <code>oracle_base</code> は、<code>ORACLE_BASE</code> 環境変数に指定した値です。</p> <pre>oracle_base/oraInventory</pre> <p>オペレーティング・システム・グループ名の指定</p> <p>指定されているグループが Oracle Inventory グループであることを確認します。</p> <pre>oinstall</pre>
oraInstRoot.sh の実行	<p>このプロンプトが表示された場合、次のスクリプトを別の端末ウィンドウで root ユーザーとして実行します。</p> <pre>oracle_base/oraInventory/oraInstRoot.sh</pre>
ファイルの場所の指定	<p>「インストール先」セクションで、Oracle ホーム・ディレクトリの「パス」の値が次のようになっていることを確認し、「次へ」をクリックします。</p> <pre>oracle_base/product/10.1.0/client_1</pre>
インストール・タイプの選択	「InstantClient」、「管理者」または「ランタイム」を選択し、「次へ」をクリックします。
JDK ホーム・ディレクトリの選択	<p>Java SDK 1.4.2 がインストールされているディレクトリを指定します。デフォルトのインストール先ディレクトリは、次のディレクトリです。</p> <pre>/usr/opt/java142</pre>
サマリー	表示された情報を確認して、「インストール」をクリックします。
インストール	「インストール」画面では、製品のインストール中、ステータス情報が表示されます。
Configuration Assistant	<p>注意: この画面は、管理者またはランタイム・インストールの場合にのみ表示されます。</p> <p>「Configuration Assistant」画面は、Oracle Net を構成する Oracle Net Configuration Assistant のステータス情報が表示されます。</p>

画面	推奨するアクション
Oracle Net Configuration Assistant: ようこそ	<p>画面の情報を確認して、「次へ」をクリックします。</p> <p>Oracle Net Configuration Assistant により、簡易接続ネーミング・メソッドが構成されます。このネーミング・メソッドの詳細は、「ヘルプ」をクリックしてください。</p>
Oracle Net Configuration Assistant: 完了	<p>「終了」をクリックして継続します。</p>
セットアップ権限	<p>注意: この画面は、管理者またはランタイム・インストールの場合のみ表示されます。</p> <p>このプロンプトが表示された場合、次のスクリプトを別の端末ウィンドウで root ユーザーとして実行します。</p> <pre data-bbox="743 526 968 552">oracle_home/root.sh</pre> <p>この例で <code>oracle_home</code> は、ソフトウェアをインストールしたディレクトリです。正しいパスが画面に表示されます。</p> <p>[Return] キーを押して、スクリプトによって表示される各プロンプトのデフォルト値を受け入れます。スクリプトが完了した後、「OK」をクリックします。</p>
インストールの終了	<p>インストーラを終了するには、「終了」をクリックし、次に「はい」をクリックします。</p>

10 インストール後の作業

Oracle Client のインストールが完了した後、『Oracle Database Client インストレーション・ガイド for UNIX Systems』の第4章で、インストール後の必須およびオプションの手順を参照してください。